



富士神社の祭神は木花開耶姫命(このはなさくやひめのみこと)、配祀神は雷神(いかづちのかみ)。由緒を記した新しい石碑が建てられている。

作に、わが子に描き残した絵本『雷の落ちない村』がある。落雷に悩む琵琶湖畔の村で、村人と少年が雷獣を退治する愛と勇気の話だ。雷獣とは雷を呼ぶ力を持つ幻獣のこと。高島市安曇川町上小川に伝わる昔話と、東近江市今代町の『雷封じの宮』の話をベースに創作されたといわれている。

「雷封じの宮」と呼ばれる富士神社は、愛知川左岸の今代集落に静かに鎮座している。由緒によると、この集落では夏が近づくと雷の集中攻撃を受け、人畜の被害が続いていた。ある日、村を通りかかる旅の修験者は「これは雷獣の仕業。天界に棲む雷獣が、地上に降り棲みついたのであろう」と説く。修験者の

『雷の落ちない村』と雷封じの宮を訪ねて

夭逝の画家・三橋節子の遺

作に、わが子に描き残した絵本『雷の落ちない村』がある。落雷に悩む琵琶湖畔の村で、村人と少年が雷獣を退治する愛と勇気の話だ。雷獣とは雷を呼ぶ力を持つ幻獣のこと。

高島市安曇川町上小川に伝わる昔話と、東近江市今代町の『雷封じの宮』の話をベースに創作されたといわれている。

指示で村人らが大きな麻の網を森に仕掛けると、夕方、激しい落雷とともに一匹の獣を捕獲する。暴れはしたものそのうち雷を呼ぶ力を失ったのか、やがて雷雨は遠のき、その後、村では雷の被害もなくなった。村人はこの森に雷を封じ込め、そこに建てた社が現在の富士(封込)

神社だという。神社の隣にある長壽院には、雷獣のミイラがあつたと伝えられているが、昭和期の火災で焼失したとか。

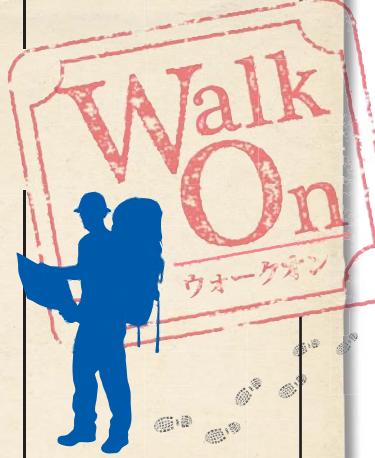
この集落を抜けて愛知川の河畔まで足をのばすのもいいだろう。のどかな田園風景の広がりと湖東の山々が一望に見渡せる。



バックナンバーをKEIBUNホームページ
「湖国滋賀ウォーキングマップ」で公開中!
<http://www.keibun.co.jp>

“Walk on”とは

「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな“近江”という舞台を、登場人物のひとりになった気分で歩いてみてはいかがでしょう。



富士神社

伝説と歴史の舞台を歩く

DATA 東近江市

- 歩行距離▶約2.5km
- 歩行時間▶約45分

今代集落の真ん中に位置する八幡神社には、東近江市保護樹木に指定されたケヤキの巨木がそびえている。樹高24m、幹周り518cm、樹齢は300年と推定され、市内の巨木の中でも最大級のものだ。春になると新葉とともに葉の付け根に淡黄緑色の小花をつける。



八幡神社のケヤキ